

令和7年4月23日(水)

令和 7 年度も地域協議会への応援を
よろしくお願いします😊

5月



地域協議会開会の様子（令和6年5月29日（水））



(左)大蔵 久徳さん

農林水産省：「令和6年度食品アクセス緊急対策事業（令和5年度補正総処分）」の公募決定を受け、
令和6年5月29日（水）、
東峰村食品アクセス緊急対策地域協議会が

東峰村での食品アクセスの課題って…？

▶ 少子高齢化や人口減少、被災等で、村内の商店の休業により、食品を買うのに困る・不便を感じる人が東峰村に増えています。また、今の困りごとを口を開けるだけでなく、子どもたちをはじめ、若年層の人たちも将来にわたって、食と物に困らないようにしていく必要が感じます。

[illegible]

会、商工会女性部、PTA、青年団、中峠村元気力シキ
あると村、子育て支援サークル、生活支援体制整備協議
見が膨れるように構成されています！



これは自店の様子

6月

不安を**安心**に変える。地域に**笑顔**を増やす。

特定非営利活動法人ほほらみの郷トイトイとは...?

山口県山口市阿東地福地域において、「地域の絆でつくる笑顔あふれる安心の故郷づくり」をキャッチフレーズにした、住民一人ひとりが主体となった地福地域の課題解決の取り組みのための地域拠点となっている団体です。

※山口県山口市阿東地域：人口約5,000人、世帯数は約2,600世帯、高齢化率は59%。少子高齢化や人口減少が進行

地域課題の解決は目的ではなく、
地域の将来ビジョン実現のための手段である。

▶地域課題に対する対応療法的な方法を続けると、
「次、また次……」と繰り返すことになり、住民の機嫌にも
繋がってしまふ。
▶まずは、「この地域がどうであってほしいか」将来を思い
描き、地域の課題を抱えたときに、解決する仕組み
作りが必要。

トイトイはみんなで育てる場所。
小さく生んで、大きく育てる。

の未来は地域主体で描き、責任を持つこと」、
主体で覚悟を決めて一歩踏み出すこと」が大切
めには、合意形成でなく、共感によるつながり
になってくる。

ノウハウ×マインド
まずは、大切なのはどっち？

▶ 地域課題の解決にむけて話し合うと、ノウハウ（方法論）に偏りがちだが、まずは「どんな気持ちで」向き合うのが大切。

▶ トイトイ構想は、子どもたちに誇りたり、だれかのせいにしている大人の姿を見せたくないという気持ちからの出発だった。

幸せの価値観を共有する。

互いの価値観を尊重することで同調ではなく、
 感になり、地域がよくなっていく。
 ・人ひとり違う『幸せの価値観』を知っていき、
 有することで、人口減少は止められないかも
 れないが、地域に笑顔を増やすことはできる。

7月

令和6年7月22日（月）～23日（火）に、広島県と島根県に視察研修へ行ってきました。

視察場所として…22日(月):広島県三次市三若町「川西博の駅「いつわの里」」
23日(火):島根県出雲町三沢地区「NPO 法人とともに」
参加者として…委員 9 名、事務局 3 名の 12 名での参加

川西郷の駅「いつわの里」について

広島県三次市三若町の概要

人 口：375人（うち、175人が65歳以上）
世 帯：170世帯（うち、116世帯が高齢者世帯）
高齢化率：46.7%（三次市全体の高齢化率は、36.4%）

1,200 人を支え・100 人が働き・170 人が関わり
30 万人が訪れる郷の駅を目指して

川西地区は人口減少・高齢化により、JA やガソリンスタンド、商店など生活に必要な主要施設の撤退が相次いだ。

そこで、平成 18 年に、地域住民自身で運営する地域密着型の新しい拠点、通称「郷の駅」づくり構想を含めた、「まなな川西いつわりの里づくりビジョン」を策定。平成 26 年に地域全体世帯の 85% が賛意、株式会社「川西郷の駅」を設立。

(株) 川西郷の駅 代表取締役 佐藤 隆夫

横永 節司さん




新築ビル！
・地域にしっかりと根ざしたデザインがある
・コミュニティスペースの活用が特徴的 など

さらに、委員の感想を見るには
こちらへ



敷地の広さ×買い初以外でも多機能

～初めての協議会～

「普段はここで買い物。」
「こんなことに困ってる。」
「こうなったらいいな。」を
話合いました！

～ほほえみの郷トイトイに学ぶ！～

高田副理事長をお招きし、
東峰村の食品アクセスはもちろん、
食品アクセスの先にある、
よりよい東峰村への気付きを得ました。

～広島・島根へ視察研修！～

地域で暮らす自分たちで、
自分たちの買い物環境をよくする。
住民自ら運営されてる様子を
実際に目の当たりにしました！

東峰村に求められている、買い物の形とは・・・？

東峰村のみなさんと東峰村への通勤者のみなさんからのアンケート結果が出ました！

アンケートから見えてきたこと・・・

- ・高齢者世帯は買い物に不便を感じる人は約3割超え
- ・子育て世帯からは買い物の不便さは7割超えの意見が集まった
- ・若年層からは、自分で買い物ができる環境を望む声が多い
- ・通勤者からは、お弁当や飲料水などを求める声が多い など

▶と世帯のニーズにも対応可能な、コンビニもしくはミニスーパーのような形が求められているのではないかと、移動販売の充実や送迎機能、コインランドリー、銀行ATMなどそれ以外の機能も備えることで、**より、みんなが暮らしやすい東峰村になりそう！**

ランドブレイン株式会社 廣中 裕次郎さん

ランドブレイン株式会社 堀口 優さん

～アンケート報告を受けての感想～（一部抜粋）

- ・特に商店がない宝珠山方面は、本当に買い物に困っている
 - ・宅配はありがたい
 - ・子育て世代が本当に時間が足りないのどう
 - ・送迎がないと買い物の機会が減ってしまう
 - ・思った通りの結果だった
 - ・お弁当が買えることが求められている
 - ・高齢者が意外と不便を感じていないのは、我慢強さや野菜を自作しているのも関係する？
 - ・子どもたちが将来も東峰村に住みたいかは半分半分の意見なんだ！
- 等々の意見がでした！



～買い物アンケート結果報告～

どの世代からも、コンビニやミニスーパーのような、東峰村で買い物できる環境の支持多数！東峰村に合った買い物の形の模索をはじめました。

東峰村で買い物できるだけじゃない、その先へ

今回の協議会では、これまでの協議会での意見交換や住民に対しての買い物アンケートの結果をもとに、東峰村に店舗を置くことで、買い物の利便性が高まるのではないかと結論がでました。そこで、東峰村に店舗ができるなら、こんなお店がみんなが利用し、長く続く店舗になるのではないかとイメージして、意見交換を行ないました。

東峰村の元気がみえる場所

ごだわりポイント：『地域の人が作っているお弁当が買え、食べられる！』『作っているところが見える！』

- ▶東峰村の住人が主役になること、住人のやりがいを実現できるような拠点にしたいとの思いから発案。
- ▶買い物場所と交流スペースの間に、加工所を設け、おぼろやんの漬物教室などを開き、東峰村の知恵を伝えることができるようにしたい！
- ▶東峰村の住民の元気が見える場所があることで、子どもたちにとっても自慢になるのでは？

角打を中心とした、夜型店舗からのコミュニティ

ごだわりポイント：『みんなが主役！』『ついでに買い物ができる！』『出資システムの確立』

- ▶子どもからお年寄りまで、寄りやすい場所にするための発案！
- ▶角打は村内の住民が日替わりでマスターとして運営する
- ▶大人たちの集いの場所でもあり、子どもたちにとっては地域食育などの拠点でもあり、若い世代の場所でもあるという多世代・多機能で、集客を行うのが目的
- ▶広くて美しいトイレを完備することで、村外客も集めたい！

～わたしたちの理想はこんな店！～

もしも東峰村に店ができるなら・・・。
ただ買い物できるだけじゃない、
買い物もできて、集えて、
楽しめるお店作りを！
それが食品アクセス改善の秘訣？

東峰村のこうなったらいいなをみんなで語る会 後半戦スタート！

今回から協議会は後半の部がスタート。新しい構成案も増え、さらにパワフルな会となりました。まずは地域協議会のこれまでを振り返り、これからについて意見交換を行ないました。東峰村での買い物のしやすさを高めるため、まずは村内でのコンビニエンスストア運営ができるかどうか検討していく予定と話がありました。

▶東峰村に、コンビニエンスストアが出来たら・・・
まずは『聞いておきたいこと・知っておきたいことは何だろう？』をテーマに意見交換を行ないました

▶意見をまとめる・・・

- ・これまで協議会が話し合ってきたような、買い物場所だけでなく、ついでの場も作れるの？
- ・コンビニエンスストアが東峰村に出来るとして、住民ができる協力ってどんなこと？
- ・コンビニエンスストアは、生鮮食品や地元の商品（特産品や農産物）は売れるの？
- ・いま、東峰村にある移動販売車と号との連携はできるの？
- ・コンビニエンスストア出店のための基準とは？
- ・村外の人のために、屋外にトイレは設置できる？

などの意見が挙がりました！



東峰村のこうなったらいいなをみんなで語る会は、
まずは、コンビニエンスストア運営の可能性から検討していきます。
今後も、東峰村にあった、買い物のあり方をみんなで話し合っていきますので、
応援のほどお願いいたします！

～コンビニ開店への道のりとは？～

令和6年度後半戦スタート！
まずは東峰村でコンビニをするなら、
どんなことを知っておく必要があるのか、
どんなことを教えてほしいのか、
みんなで意見交換を行ないました。

今回の協議会では、コンビニエンスストアの担当者の方にお話をいただき、
『東峰村でコンビニエンスストアを運営するのなら聞いておきたいこと』をテーマに意見交換を行ないました。
実際に、コンビニエンスストアの担当者の方のお話を聞いたことで、
東峰村での買い物の環境改善に向けた具体的なイメージを持つことが出来た機会となりました。

キーワードは、
『東峰村に住む私たちが応援したい、協力したい！店舗なのか！』

コンビニエンスストアの担当者の方とお話して分かったこと
その1：『自分たちが望んだ環境を維持できるように、一人ひとりの応援する意識が必要！』
▶今回のアンケート調査の結果から、住人や村外から村へ働きに来ている多くの人が、東峰村で買い物ができるお店を求めていることが分かった。そうであるならば、せめて村に店舗ができた場合は、東峰村でいままでも買い物ができるように、住民が応援していく必要がある。多くの人が応援しやすい形は、やはりその店舗で買い物をする事です。ですが、店舗の形にはさまざまなあり、たとえば店舗で働く人にも応援の形があり、私たちが望むような買い物環境をいままでも維持できるようにするには、私たちが一人ひとりの意識が重要なんです。

コンビニエンスストアの担当者の方とお話して分かったこと
その2：『協議会でこれまで話し合ってきたコミュニティスペースや屋外トイレの併設について』
▶都市部にあるコンビニエンスストアの形態ではなく、東峰村のこうしたいいなを語る会でこれまで話し合ってきたように、住民のついでに場となるようなコミュニティスペースや、東峰村に働く方々のためにも屋外トイレを設置したい！という要望も出ています。東峰村らしいコンビニエンスストアの実現の可能性もあがりつつあります。大切なことは、どんな店舗であれば、東峰村の住民が応援しやすくなる店舗であるか、です。東峰村らしい店舗の実現のためには、何らかの形で協議していく必要があります。

コンビニエンスストアの担当者の方とお話して分かったこと
その3：『これまでの東峰村で行なってきた買い物支援との連携について』
▶これまで東峰村では、買い物支援のために、移動バスや、おぼろ号を運営してきました。店舗まで行くことが困難な住民の方のために、自宅の近辺で販売に来るおぼろ号は大切な買い物機会です。そのため、店舗ができたら、おぼろ号とも連携することで、より充実した買い物環境にできる可能性が高まるようです。

東峰村での買い物のしやすさを高めるためには、
東峰村で暮らすみなさん一人ひとりの応援が必要になります。
これからも、東峰村のこうなったらいいなをみんなで語る会は、
協議会を重ねていきますので応援のほどお願いします！

～コンビニ開店への道のり part2～

実際にコンビニのご担当者として意見交換を行ないました。
東峰村の食品アクセス改善には、
私たち一人ひとりの応援する気持ちが
鍵となりそうです！



◀ これまでの東峰村食品アクセス緊急対策事業の様子は、
東峰村社協ホームページでも
ご覧いただけます！

